

(様式1)

塩商工第267号

平成28年3月1日

高等学校教育課長 様

学番 58 県立塩沢商工高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

塩沢商工高校

【テーマ】

塩沢商工が創造する「南魚沼活性化プロジェクト」

【目標】

本校は魚沼地域の唯一の専門高校であり、商業科、機械システム科、更には機械システム科では建設土木の科目履修が可能などの特性がある。このプロジェクトをとおして、Employability（雇用されうる能力）を養い、専門高校としてキャリア教育の観点から、将来、この地域を支え活躍する人材を育成する。

【取組の概要】

- 建設業をはじめとする地元企業でのインターンシップの拡充を図る。
 - ・ 地元商工会や地域企業と連携を取り、職場実習・インターンシップを拡充し、人材を育成する。
 - ・ 地元建設企業と連携し、企業等から講師を招き、授業では学習することのできない内容を学習し、地域の問題に寄り添った技術者・技能者になるキッカケとし、地域を支え活躍する人材を育成する。
- 地域行事への参加や地元の産業・特産品のPR活動を行う。
 - ・ 地域の商業施設等で販売実習・イベント開催
 - ・ 地元企業と連携し、企業等から講師を招き、地元の産業・特産物等を取りあげ、特産物の良さを再発見し、企画立案からPR・販売実習と一連の活動を行い、地域の情報発信・PRを行う。
 - ・ 学校みどり創出モデル事業等の地域の小学校と連携し、地域活性化につなげる。
 - ・ 地域文化財の研究・PR、地元の産業や生活の活性化、克雪への試みを行う。

【取組の成果】

- ・ 建設土木業を含めた地元企業によるインターンシップの拡充を図った。就業体験を実施することで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待を感じることができた。
- ・ 建設土木の現場見学や地元建設企業並びに地元生産者の講演をとおして、建設土木企業の作業内容やその重要性、冬季時における降雪への対応、そして雪の有効利用について理解を深めることができた。
- ・ 地域の小学校と連携した「学校みどり創出モデル事業」や地域のイベントである「土木フェア」に参加することで、地域貢献の一端を担うことができたとともに、地域が抱える課題を再認識することができた。
- ・ 講義等を通じて、南魚沼地域の観光資源や地元の商業活動の特徴について学習し、再発見するとともに、地元酒造や道の駅で行われている作業を見学することで、具体的な販売活動の様子を確認することができた。

1 地元企業と連携したインターンシップの取組について

本事業と「進路希望達成・学力向上対策事業」と連携させ、平成27年10月14日（水）～16日（金）の3日間、地元企業へのインターンシップを行った。

昨年度、インターンシップに参加した生徒は1・2年生の希望者36名、実施企業は16社であったのに対し、本年度は、1・2年生希望者99名、実施企業は建設土木系企業も含め43社と拡充させることができた。

参加した生徒からは、「とても良い経験ができた」という感想を得ることができ、就業体験を行うことで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待をも感じさせることができた。以下に生徒の主な感想を示す。

【生徒の主な感想】

- ・ 短い時間だったけどインターンシップに参加して、仕事の大変さや難しさを知った。僕にとってこの3日間はとても有意義な時間でした。
- ・ 仕事をするためには、その仕事に必要な資格を取らなければ仕事ができないということがわかりました。
- ・ 自分は建設業に少し興味があり、実際に体験してみたら大変な職業であるということがわかりました。建設業は、自分の作ったものが他の人たちに役に立っていることがわかり、やりがいを感じる事ができ、とても良い経験をする事ができた。

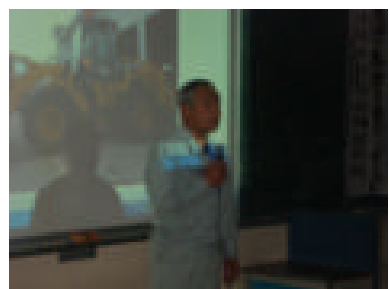
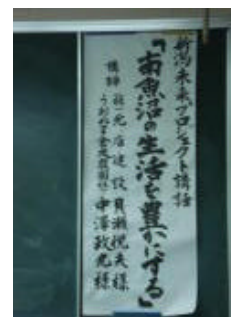


2 克雪並びに雪の有効利用に関する講和

「南魚沼の生活を豊かにする」と題して、地域の大きな課題でもある除雪や雪の有効利用について、地元企業や大学教授から講和をいただいた。

㈱元店建設の貝瀬様からは、冬期間における除雪に対する地元建設土木系企業の業務内容、本県並びに南魚沼地域の除雪の体制、降雪が予測されるとき職員の勤務体制、除雪するための機械の種類（除雪ドーザーやロータリー除雪車、除雪グレーダー等）やその機能、道路や歩道の除雪や排雪の方法など、スライドの画像を見ながら具体的なお話を聞くことができた。冬期間における除雪について、地区の道路交通網を如何に確保し、市民の生活を如何に守るかというお話が聞けた。

うおぬま倉友農園㈱中澤様からは、雪の冷熱エネルギーを有効活用した雪室についてのお話をいただいた。この南魚沼地区の特産品の一つでもある「コシヒカリ」の貯蔵方法について、「10℃以下で貯蔵することでお米の酸化が止まり、この状態で長期間貯蔵することにより、旨味成分が増大するとのことである」「これは、お米だけではなく、ニンジンや野菜・お酒なども同様であり、これらを冷蔵するための冷熱エネルギーとして雪が有効利用されている」「また、石油等が資源として使用され



る前は、マキが資源として使用されていたため、この南魚沼の地域はこれらの資源が充実していたために、以前より住民が定着していた」というお話が聞けた。

長岡技術科学大学の上村教授からは、機械システム科2年生に「雪利用最前線」と題して、新潟工科大学の佐藤教授からは、機械システム科1年生に「雪の冷熱エネルギー利活用」と題して、それぞれ講義をいただいた。

講義内容は、「雪が冷熱エネルギーとして利用されること」「冷蔵保存のための雪の利用」「夏場に雪で冷房する家」「雪氷熱エネルギーの活用術」等の説明を受けた。冷熱エネルギーの利用で大切なのは、費用対効果についてであり、ビジネスとして成功させるための考え方や新エネルギーについて講義いただいた。

このように、学校の授業だけでは学習することのできない内容についてのお話しをお聞きし、地域の課題や特徴を理解するとともに、地域の魅力や克雪の可能性について理解することができた。

【生徒の主な感想】

- ・ 雪は「スキーができる」だけかと考えていたが、冷房システムや空気清浄、除湿にも利用できることに驚いた。
- ・ 雪は不要なものと考えていたが、講演を聞いて雪が素晴らしいエネルギーであることがわかった。新潟は、雪という武器を上手に使っていることに驚きました。

3 現場見学並びに地域の事業や地域行事への参加

(1) 「国道289号 八十里越現場見学」

機械システム科1年生による土木の現場見学会を平成27年6月に行った。現場は、国道289号八十里越で新潟・福島県境の通行不能区間の解消を目的とした、三条市塩野淵から福島県南会津郡只見町叶津に至る土木作業現場である。

この整備により、三条市から只見町間の通行不能区間が解消されることにより地域間の交流・連携が増大するとともに、高度医療機関への救急搬送時間が短縮される効果があるとされている。

このように、トンネルを掘削する作業や作業に使用する建設機械を実際に見学することにより、その作業の実際を体感し、把握することができるとともに、建設土木といった職業の重要性について、理解を深めることができた。また、本校では機械システム科2年生において、建設土木系の科目選択することができるため、科目履修について考えるきっかけを与えることができた。



(2) 「学校みどりの創出モデル事業」

南魚沼市立塩沢小学校では、都市緑化や県産材振興に対する意識啓発及び地域コミュニティの活性化を図ることを目的とした「学校のみどり創出モデル事業」（新潟県南魚沼地域振興局発注）を平成26年度から3箇年計画で実施することとしている。

小学校の敷地内にある「みんなの広場」に築山及び植林を行うため、地域連携の一環として本校の機械システム科2年生建設土木選択者が小学校に赴き、築山に必要な丁張設置を行った。本校生徒は、小学校という実際の現場での測量を通じて、責任を持って仕事を行う大変さや苦労を体験することができたとともに、身につけた技術で社会貢献ができる喜びも感じることもできた。以下に生徒の感想を示す。

【生徒の主な感想】

- ・ 学校より広い場所で測量を行うことができ、とても良い経験となった。
- ・ 環境が整っていない場所での測量だったので本当の現場のようで大変だった。



(3) 「土木フェア」

地域の皆さんから土木（建設分野）に対する理解と関心を深めていただくことを目的に、新潟県南魚沼地域振興局が主催する「土木フェア」（平成27年10月11日、八色の森にて開催）に参加した。

当日は、側溝や道路に設置されている視線誘導標（デリネータ）などの土木資材にトラロープで作成した輪を投げる「ドキドキ土木輪投げ」を実施し、幼児や小学生を中心に多くの方々から参加していただいた。

地域貢献の一環として、この土木フェアに参加することとしたが、生徒が地域住民と触れ合うことによりコミュニケーション能力の向上が図れたとともに、建設土木系の実習に関するパネル展示も合わせて行ったため、本校における建設土木系の学習の様子をPRする大変良い機会にもなった。

【生徒の主な感想】

- ・ 少しでも多くの方に土木について知ってもらえて良かった。
- ・ 小さい子達と触れ合うことができて楽しかった。



4 地元の産業・特産品のPR活動の実施

(1) 地域の観光資源等の学習と情報発信に関する講演

地元の地域の観光資源について、南魚沼地域復興支援センターの小林様より、地域の観光資源や地元の商業活動の特徴について講演いただいた。

この南魚沼の地域における観光資源には、「スキー場」や「温泉」等といったものがあげられ、これらに



伴う宿泊施設なども大きな資源ということが出来る。また、「コシヒカリ」等の代表的な農産物やお酒、その他にも塩沢紬や牧之通り等といった特産物や観光資源があることがわかった。

この講演を通じて、南魚沼地域の観光資源や地元の商業活動について理解を一層深めることができたとともに、その特徴について再発見することができた。

これらの内容をもとに、地元の観光資源や特産物を高校生の視点から、如何にPRし、情報発信していくか考えるきっかけとしたい。



(2) 地域企業におけるビジネスマナー研修

南魚沼地域復興支援センターの小林様の講演より、この地域における観光資源において、宿泊施設も大きな資源という観点から、地域の観光企業（観光資源）である(株)上越観光開発様と連携し、上越グリーンプラザホテルにてフロント主任である井上様と南魚沼地域復興支援センターの小林様による「ビジネスマナー講習」を実施した。

実際に本地域の観光資源でもある宿泊施設に赴き、「接客マナー」や「ビジネスマナー」についての講義をいただいた。現場における講習は、実際の接客に対する雰囲気を感じることができ、「マナー」の重要性について認識を深めることができた。これから冬本番を迎えるホテルの従業員の皆さんより、指導をいただけたことにより、生徒も緊張感をもってお話を聞いていた。

このビジネスマナーについては、接客のほかにも販売活動においても必要であるため、生徒にとっては貴重な体験でもあった。

【生徒の主な感想】

- ・ この「マナー講習」で多くのことを教えていただいたが、その中でも「挨拶をしっかりと行う」「話をするときには大きな声で」「靴を揃える」といったことが印象に残っている。
- ・ 売店などに物を陳列する際は、お客さんに「見せる」置き方をしなければならぬことが分かった。館内の雰囲気も、その季節感を大切にされた装飾がなされており、その視点の重要性が大切であると感じた。



(3) 地元の物産品の加工及び販売の学習

南魚沼地域の観光資源や特産品等について、講義等でその様子を把握することができたが、その地元企業における商品開発や販売方法、南魚沼の特産品に対する考え方を学習するために、地元の酒蔵である八海酒造「魚沼の里」や道の駅南魚沼「雪あかり」、うおぬま倉友農園(株)に赴き、販売戦略や具体的な販売方法などの学習を行うことができた。この南魚沼の特産品を



如何に販売するか、もともと魅力のある特産品ではあるが、その販売戦略によって大きく実績が変わる。これらのことについて、現場の生の声を聞くことで、実際に行っている地元の特産物の魅力向上に対する考え方を学ぶことができた。

これらを参考にして、高校生の視点から特産物等をPRする手法や商品を情報発信する手法を検討するきっかけとし、販売実習につなげる。



【生徒の主な感想】

- ・ 雪むろをテレビで見たことがあったが、実物を間近で見てその規模の大きさに驚いた。この雪むろも南魚沼でなければできないことで、地区の大切さがわかった。
- ・ お酒は水が大事なことがわかり、地域ならではの地元の米や水を使っていた。地元のものを使うことで、違う味になることもわかった。

5 総合所見

今年度、実施した何れの取り組みにおいても地元企業と連携して実施することができた。これも地元企業においては、本校に対する期待が大きく、本校の生徒の育成のためにご尽力いただいたものと考えられる。本校においては、この南魚沼地域を支える人材の育成が求められていることから、より地域に密接した教育活動を行っていく必要があると考える。これらのことから、次年度に向けて次のようなことを実施していきたい。

- ① 次年度のインターンシップについては、2年生全員を対象に計画する。今年度と同様に、「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」と「進路希望達成・学力向上対策事業」と連携させながら実施したい。生徒が就業体験を行うことにより、生徒の職業観や勤労観を育成させることができるとともに、本校の離職率の状況から見ても、地元企業の魅力を学校生活の中で感じさせる場面を作ることが重要であると考えられる。本校の離職率は、全県の工業高校や商業高校に比べて高いほうである。離職率に対する改善に向けても、就業体験は重要であると考えられる。また、本校の生徒を地域企業へ派遣することにより、本校の生徒の様子も各企業に理解していただける機会として捉えている。
- ② この南魚沼地域の雪に対する課題や雪の有効利用について、より理解を深めさせつことが大切である。この地域における降雪に関する問題は、切っても切れないものがある。除雪作業等この雪と如何にうまく付き合い、如何に有効利用していくかその手法を考え、実施することは、この地域を活性化させるための一つの手段でもある。従って、次年度においても克雪や雪の有効利用についての講話を取り入れていきたい。
- ③ この南魚沼地域における建設土木系の学習については、地域を挙げて協力を得ることができている。この地域の協力を得ながら、本校における建設土木系の実習内容等を構築していく必要があり、今後も地域建設業協会などの団体と連携した学習内容を構築していきたい。そのためにも、地域企業や建設業協会との関係を継続していく必要がある。
- ④ この南魚沼の地域には様々な観光資源があるが、その中でも「スキー場」や「温泉」といった施設、そしてこれに付随した宿泊施設、農産物では「コシヒカリ」、そして「お酒」などの食料品等があげられる。これらの資源がこの地域の大きな魅力でもあり、人々が生活していく術でもある。これらの資源の有効性や魅力を全国に発信しその製品を販売していくことが、この地域の活性化に繋がる。これらを学習する機会は、次年度においても必要であり、最終的には販売実習まで繋げたいと考える。